

革新力

夜の鶏舎は静まり返り、AIとIoTを活用している。赤外線センサを開発するPexAI社には、床際を素早くスタートアップ企業、く動く白い影が映し出されてきた。ネズミだ。七（東京・品川区）



ネズミやゴキブリを検知するAIカメラ。画像はFutuRocket提供

赤外線×AIで害獣・害虫対策を可視化

日本発スタートアップの挑戦 FutuRocket

は、こうした映像をAIで解析し、これまで「見えなかった」害獣・害虫の動きをデータで可視化する取り組みを進めている。同社は展開するのは、シンプルなAIカメラシリーズをはじめとした現場向けデバイスだ。設置から撮影、

「J A アクセラレだけだなく、活動が活され、畏の配置改善につながった。対策前後の変化を数値で示せる。点も評価されている。人手不足が深刻化する中、巡回点検の負担軽減も狙う。」

「暗所や天井裏では、保護色の個体が背景に溶け込み、光学カメラでは限界があった。突破口となったのが赤外線技術だ。三菱電機の共創プログラムを通じ、温度差を捉える鶏舎内で、5万枚の鶏卵を感度検査のリスクも大きい。飼料被害に加え、人口増加が進むインドネシアやインドでは、食料被害に

「J A アクセラレだけだなく、活動が活され、畏の配置改善につながった。対策前後の変化を数値で示せる。点も評価されている。人手不足が深刻化する中、巡回点検の負担軽減も狙う。」

「暗所や天井裏では、保護色の個体が背景に溶け込み、光学カメラでは限界があった。突破口となったのが赤外線技術だ。三菱電機の共創プログラムを通じ、温度差を捉える鶏舎内で、5万枚の鶏卵を感度検査のリスクも大きい。飼料被害に加え、人口増加が進むインドネシアやインドでは、食料被害に

「暗所や天井裏では、保護色の個体が背景に溶け込み、光学カメラでは限界があった。突破口となったのが赤外線技術だ。三菱電機の共創プログラムを通じ、温度差を捉える鶏舎内で、5万枚の鶏卵を感度検査のリスクも大きい。飼料被害に加え、人口増加が進むインドネシアやインドでは、食料被害に

「暗所や天井裏では、保護色の個体が背景に溶け込み、光学カメラでは限界があった。突破口となったのが赤外線技術だ。三菱電機の共創プログラムを通じ、温度差を捉える鶏舎内で、5万枚の鶏卵を感度検査のリスクも大きい。飼料被害に加え、人口増加が進むインドネシアやインドでは、食料被害に

「暗所や天井裏では、保護色の個体が背景に溶け込み、光学カメラでは限界があった。突破口となったのが赤外線技術だ。三菱電機の共創プログラムを通じ、温度差を捉える鶏舎内で、5万枚の鶏卵を感度検査のリスクも大きい。飼料被害に加え、人口増加が進むインドネシアやインドでは、食料被害に

社会課題解決への明確なストーリーが鍵

成長企業に共通する要素として経営者の資質と社会課題解決への明確なストーリーがある。食料危機や気候変動、自給率低下といった課題に対して、ロボットやAI、バイオなど多様な技術、様々なコミュニティが交わることで「化学反応」を起こし、生産性が

萩野浩輝氏
AgVenture Lab 代表理事

向上し、新たな価値が生まれる。アグベンチャラボは、2019年からスタートし、約60社が卒業し、累計評価額は1000億円を超えた。大規模な海外展開支援を強化し、食と農をスマートで誇れる産業へと転換を図っていく。